

---

# S a n g r e -口八の森-

あくる

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

S a n g r e - 口八の森 -

### 【Nコード】

N 1 3 7 7 C

### 【作者名】

あくる

### 【あらすじ】

少年と、赤い眼を持つ少女。二人の出会いと、闘い。互いが成長していく物語。

## 第零話：c e r o

食欲を誘うような香りが辺り一帯に広がっている。

【薫製したウサギ肉】と言えば、ここらでは馴染み深い料理の一つで、作り方はシンプルだ。若いウサギの肉を冬の間中燻し、更にその上に甘辛いソースをたっぷりかけるといった具合だ。同じ要領で豚肉を薫製した料理もあるが、ウサギの肉を食べる習慣のない隣国から来る観光客ばかりがこちらを好んで食べていた。

どちらにしろセルカにとっては有難く無い料理だった。習慣以前に、ウサギ肉を食べようと思ったことは無かったためである。他の肉も同様だ。菜食主義の彼が血の滴るような肉を好んで食すというのはまずありえなかった。

昼時に屋外に並ぶテーブルの上に、肉の乗った皿を載せていないのはセルカだけかもしれない。あまつたるだけのトマトスープと隣に座るごつい男が食べている豚の丸焼きを比べながら、なんとなく肩身の狭い思いをしながら、食事を済ませ、気付けば席を立っていた。

テーブルとテーブルの間を歩く時も、目につくのは、肉を美味しそうに食べる家族であったり、恋人、あるいは一人者だった。

肉のことはさておき、セルカは【コロール】に来たからには一度立ち寄ってみたい場所があった。首都であるここは、国中から様々なものが集められてあるのだ。それは、食べ物であったり、動物だったりするのだが、特に【アルコ・イリス】と言う通りに連なる市場が活気に溢れていた。彼が行きたい場所というのは、つまりはそこなのだ。何千種類もの果物はこの市場の目玉と言っていていいかもしれ

れない。同じ果物でも形が多少なりとも違っていたり、色、大きさも多様である。そんな

「色」が陳列された市場で、セルカは幾つか果物を買ひ、然程興味があるわけでもなく、通りの奥に進んだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1377c/>

---

S a n g r e -口八の森-

2010年12月10日20時10分発行